明治三十八年一月十四日 第三種郵便物認可

朝鮮日報

紀元二千五百六十五年
韓曆光武八年
陰曆甲辰十二月廿三日

定價 壹ヶ月 金參拾錢 [illegible]
廣告 五號活字十九字詰 壹行壹回 金拾三錢 三日以上 金七錢 五日以上 金五錢 特別同 金貳拾錢
發行兼編輯人 葛生修亮 印刷人 [illegible]
釜山港大廳町二十七番地 發行所 朝鮮日報社

公開狀

黒潮子に與ふ（下）

[illegible]村生

[illegible]

本なり、平易にして初めて目的を達すべく多く解して以て用を爲すべし、範圍の狭幹なる漢字は是に征めて存せしめ[illegible]後の論調筆致を進めて可なり、益々奮つて可なり、改むるも勿れ、現時の圓熟せる黒潮流にて可なり、到れる也、盡くせる也、決して改むる勿れ。

想ひ起す足下、往世保時事新聞の若境を買ふて、之が改革を企て、一新として大日本新聞魂の一番を公にし、更に軍港新聞を創立して之が主幹たり主筆たりし、今や此新聞日を追ふて隆々、殆んど旭日昇天の盛あり、何が爲に之を捨てたる、何が爲に其機を他に與へたる、乞ふ言はしめよ、一は足下が豫ての企圖たる、日本を狭しとし外國語に通ずるの故を以て、海外事業經營の念頻りなると、一は俗にいふ『きかぬ氣』の膨脹せるものならずや、余は足下が新聞事業の成功を土産として、母國を去る、顧みて心中之を快とし樂しむの大なるべきを信ずるなり。

多藝多能、之を言へり、聞く足下、日報紙上硬軟兩派、二つながら之を受けて、一日例く四五百行を書て餘裕ありと、眞か、敬服措かず、其勞や多とすべく文壇に馳せる忠實、謝するに處なしと雖も、聊か爲に此多文多作を惜しまざるを得ず、發兌の紙數五號六號を重ね、僅に他に冠たる所以茲にありとすれば、少しく筆を雜錄の勝鬪に讓れよ、梅柳、亦た寛容の襟あらんか、然れども此硬軟二つながら、之を能くせんもの足下を措て他に求むべけんや、誰か能くすべく誰か企て及ぶべき、足下は其留意せよ天職の新聞記者也、珍らしき有數の新聞記者也、筆硯多難なれ、至囑至禱。

朝鮮稗史 林慶業の傳（五）

浪嶼生譯

李上使勅答して陛下の聖敎謹んで奉すべきも寡宮の心中今遠かに計るべからざるものあり御暫く彼れを親聞あられん事をと奏しければ皇帝は特に李時白に向つて慶業を召すべきの旨を命ぜられたり。

李上使命を受けて直ちに之れを慶業に傳ふ慶業命に應じ來れば皇帝は之れを[illegible]き命ずるに劉爲討平の事を以てす慶業地に伏し三拜して答て曰く外臣にして斯の如きの大命を蒙る惶懼措く所に詞なし殊に况んや身小國に生れたるの陪臣にして淺才無智戰鬪の術策を知るものにあらざるをや陛下宜しく大器を垂れ賜はん事をと、皇帝之れを聞し召し英傑の士にあらざるより[illegible]此議遜の辭を出すべき朕は之れを以て千古に輝く壯士の龜鑑となす嗚呼朝鮮小國と雖も斯の如きの豪傑を出し朕が南京は徒に大國の名あるも到下の時亂に際し一將師を出す能はずと歎々之れを久ふし改めて玉盃に御酒を賜はれるに慶業大に面目を施おし辭するに詞なく遂に御諚に及びける

明廷茲に於て即日十萬の精兵と千餘人の勇將とを調發し慶業に上將軍兼都元帥の印綬を下賜せらる慶業命を拜し上使と共に闕下を辭し出づ上使途すがら慶業に向つて曰く生等王命を奉じ故國を辭して以來足下と死生を同ふし苦樂を共にし幸に任務を全ふして歸朝する期を祝し居たりしが足下には意外にも皇命によりて萬里征戰の途に就かるゝ事なれば生死の程は計られざるも幸に身を全ふして大功を肆か速かに歸國の期あらん事を切望すと涙を流して申しければ慶業欣然答へて大監夫れ深慮し玉ふ事勿れ凡そ人命には天運必らず之れに伴ふ小臣留つて大捷を期し平安歸國兩留を爲すべしと

斯くて軍旅も全く整ひ慶業出發の機となりければ太子親しく文武の廷臣を随へ郊外に逆餞せられ軍幕を排設して親盞を賜はり勞を慰して曰く嗚呼今朕に代つて萬里遠征の途に上る其勞苦察すべきものありと雖も朝廷は自重して大功を樹て凱旋相見んあとを頌むと慶業再拜謝して出で直ちに行軍の令を發す[illegible]るに行[illegible]遲退毫も其法に違はず中に大將一人四輪車に乘り左手風尾扇を揮し右手に笏旗を執りたるさまは威風凜然として勇悍の氣象自ら顯はれ實に千軍万馬の間に立てる古の名將も斯くやと思はるゝ計りなりければ天子叡感斜ならずして車駕を宮中へと還し給ふ

林元帥三軍に將として[illegible]二月漸く胡國の地に到着あり、之れより先き胡國は援兵の來るべき牌文を見て急ぎ郊外三十里の地に出て之を迎接し具さに敵陣の形勢を縷陳す元帥は暫時兵を駐めしめ、日を期して將に大いに接戰せんとするの準備も整ふ胡國も亦た此援兵を得たるに氣を得て兵士何れも勇[illegible]し報を遠近に傳へて益々兵勇を募りたり元帥先づ密かに諜して賊陣を伺はしめたるに軍丁悉く離反して軍中毫も規律なく一見烏合の衆たるあとを知るを得たるを以て愈々胡國を[illegible]することゝはなりぬ

慶業は胡國の將をして先づ陝谷に埋伏し鐵騎一千を其後に從はしめ、元帥本陣にありやがて駿馬に跨り敵陣近く打ちて出で賊陣に向い大聲を發して[illegible]といふ者なり今回天[illegible]命を受け汝等の罪惡を懲さんとす汝等若し非を悔ひ行を改め降伏を致すれば之れを免さんなり然らずは[illegible]事あらん[illegible]さん故宜しく覺悟すべし[illegible]ける

雜報

●京義鐵道工事 全線の南北二區に大別し南方は京城より平壤に向て工事を進め北方は義州より平壤に向ひ着手せり而して京城平壤間は本年中に開通する筈なりしが材料の供給遲延せし爲め豫定の如く開通を見る能はざりしも最早殆んど竣工し又た一方義州より着手せし工事は來る二月中に宣川、定州の中間迄竣工する筈なれば剩す所僅に六十哩に過ぎずといふ

●滿人の反抗 滿州に於ける淸人の我軍に對する感情は種々事情の行違より近來良好ならず其主因と認むべきは夫の軍用手形の流通に關する點に在り、[illegible]等は日本軍に對し[illegible]反抗の態度を取り露服中一たび我軍の戰勝[illegible]に向て[illegible]したるあとあり形勢此の如くなるより露國に同情する宣敎師等種々の手段を以て我軍の行動を非難し中外の耳目を眩惑せんとし在遼陽の日本人中には此事實に對して前途を憂慮する餘り[illegible]に書を内地の名士に寄せて政府に警告を爲さんとするものあり政府も深く警省する所ありと

●韓國の本年度歳出豫算梗概（一）

◎歳出經常部

光武九年度に於る韓國豫算の概略は既に本紙に掲載したるが今其同年度の歳出豫算を得たるにより其梗概を左に掲ぐ

皇室費		一百七万三百二十九元
享祀費		二十七萬九千[illegible]元
紙貨支出差增		一百四十[illegible]元
合計		[illegible]
●宮內府所管●		
第一款	經理院本廳	一萬九千四百七十元
第二款	釜山出張所	二千[illegible]元
第三款	西北鐵道局	二萬五千[illegible]元
第四款	警衞院本廳	十六万二千[illegible]元
第五款	開港場警察署	六萬[illegible]元
第六款	敎式院	二萬一千[illegible]元
第七款	[illegible]學局	七千[illegible]元
紙貨出差增		一萬五千六百元
合計		三十二万三千[illegible]元
●耆老所所管●		
第一款	耆老所本廳	二万[illegible]元
●議政府所管●		
第一款	議政府本廳	
第一項	俸給	三万九千[illegible]元
第二項	廳費	二万九千[illegible]元
第三項	會合修理費	[illegible]
第四項	雜給及雜費	[illegible]
第五項	旅費	[illegible]
第六項	官報費	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]
第二款	地方各道	八萬二千七百八十八元
第三款	地方各府	一萬三千一百九十四元
第五款	濟州牧	四千四十元
第六款	地方各郡	七十二萬一千二百[illegible]元
第七款	廣濟院（病院）	八千九百五十六元
第八款	種痘	四千一百六十一元
第九款	地方各亭驛費	八百七十一元
紙貨支出差增		七千二百元
合計		八十九万三千四百八十七元
●外部所管●		
第一款	外部本廳	三万三千九百十四元
第二款	各開港場監理署	[illegible]万九千七百四十九（紙貨）
第一項	仁川監理署	五千八百二十元
第二項	東萊監理署	五千五百七十元
第三項	德源監理署	五千二百七十元
第四項	慶興監理署	四千五百二十元
第五項	務安監理署	五千二十元
第六項	三和監理署	五千[illegible]二十元
第七項	沃溝監理署	五千二十元
第八項	昌原監理署	五千二十元
第九項	城津監理署	四千七百二十元
第十項	義州監理署	四千七百二十元
第十一項	平壤監理署	四千五百二十元
第十二項	龍川監理署	四千五百二十元
第三款	在外公館	十七萬八千七百三十元（紙貨）
第一項	駐日公館	一萬八千三百二十元
第二項	駐美公館	三萬一千二百八十元
第三項	駐英公館	三万六千七百八十元
第四項	駐俄公館	三万六千七百八十元
第五項	駐法公館	三萬七千三百八十元
第六項	駐淸公館	一萬八千一百八十元
紙貨支出差增		二十三萬八千四百六十元
合計		五十一萬八百三十四元

備考 一元は我一圓にして紙貨とは日本紙幣を指すなり

●東鄕大將の迷惑

旅順艦隊を殲滅せる東鄕大將も意外なる强敵に苦しめらるゝ[illegible]大將の戰勝[illegible]の名譽を荷ひ凱旋せられたるより以來各國の貴夫人若くは男女學生より祝文祝辭を寄せ來るもの引きも切らず是非に大將自筆の返書を得たしと申し來るもの多く今や其數何萬と云ふ多數に及び[illegible]歐米より誠意を以て寄せ來るものに打捨て置く譯にも行かず去りとて返答するは大變なりと流石の大將も大困り果て居らるゝと云ふ

小品文

玄海灘

古山生

[illegible]を得ずして東に西に、[illegible]吾過去は祖國の犠牲なりけり、さはれ現在の犠牲は[illegible]、永遠の犠牲は遂に堪ゆべくもあらず。[illegible]に故國の春を乘て、より、あゝ正義、翻ふ今に於てわれ何事を成したる、吾れ冷かなるも彼の灰の如くなる能はず、吾は熱せる火の如きものなるが爲め[illegible]、さらば吾れは失意の胸に衣覆ふ長き人生を終へんとす可き乎、非、非。彼の颶風の無上の權力を押す吾れも亦[illegible]られたる精力の命冠、あゝ頂きて人生の巷より出づ、吾散よ去れ。[illegible]は春の夜の月を漂はす夢の如き平穩の[illegible]まはんには餘りに氣の旺大なるを知[illegible]ん、吾を容るべき海、そは茫々として[illegible]にてあるべし、滄瀾として萬里の天空に涯る[illegible]を碎き、吾れの翔ふ氣、それは千萬里漫々として雲を宿すの處にあるべし、行かんかな、去らんかな、さらば故郷よ。

あゝに三度の（或は永遠か）別離れを故郷に告ぐ、吾袂は痩せて行く秋の風に輕くさゝやくなり見よ而して低く地上に臨める秋の大空は其の清透てふ力の能ふ丈けを盡くし蕭條として一人の孤客を送るにあらずや、地よ、空よ、人よ、吾故郷を[illegible]自然と人間よ、さらばいさ。

遙かに[illegible]の月の大空の彼方に聳ゆが見ゆ、雪の如くに輝[illegible]雲のちぎれ[illegible]は星球らに瞬き動かずして靜かなる秋の夜のあはれ如何に吾小さき心中の琴線を打つて限りなきの感想を喚らあんとはするぞ。たゞ是れ渺漫万里の空、たゞ是れ怒濤百尺蒼冥坤軸を叩けば玄界の空は浪に伏して、おゝに万古不滅の偉史と千古不滅の偉蹟とを留む、殊に今宵は海神荒れに荒れて吹く潮吹く浪、飛ゝ[illegible]の潮には月の影を織り、走る其の浪には金銀緞絹の影の形かなり、逐々として錦ひ來る浪の態度が弦頭に散りては千絃万絃のさゝやき散りて碎くる其の玉には千朶萬朶の花の粧ひあゝ實に偉大なる眺めなるよ。

浪又浪、空又空、月は猶は輝き雲は猶は飛ぶ、無窮の大空、無心の大海星斗時に黑雲の翳りに隔く、吾れは沈めり、吾れは昇れり其の沈める時は靜かなる月を仰ぎたる時、昇れる時は其の万丈の波瀾に接したる時。蒼龍白蛇の躍るといはんか、此の玄界灘の夜も何時か明け行きて東の空今は白ふなりぬ、波に洗はれし一人の孤客は靜かに舵頭に立ちて將に昇らんとする旭日を待ちつゝあるなり。

俳句

春襍吟

韓人の衣の垢や春寒し　天奴
千代八千代治る御代や春の海　仝
學校の祝捻會や春の風　美瓢
春寒く井戸端會議長からず　仝
湯話りの話に更けぬ春の宵　其昌
開城の式も濟みたり春の雲　仝
春宵や小提灯行く車坂　入畫
汝も又春來と知るやみそさゞい　仝
遠征や不圖友に逢ふ雪解の日　黑潮
禿山に韓國の雨春寒し　仝

（春の句を募る）

飜譯小說

佛蘭西騎兵の花（七）

英國 コーナンドイル作
日本 梅村隱士譯

幽鬱城の探險（つゞき）

世良田等の立つてゐる正面に垂幕あつて次の間に通ふ樣になりたるは前に云た通りだが、男爵が劍を取りにとて次の間に走り去るや間もなく其の後から一人の若い美人が出て來た。

其擧動の靜かなのと其迷いのと、二人の前に現はれるまでは何處から來たのか解らなかつた位、只幕の動いたので以て何處から來たのかと思ひ合はされる。

此美人は叫んだ。

『妾は悉皆見て居ました』

『貴下方は甘く這入つてあらつしやいました』

斯う云つていきなり龍野の手の甲に接吻して幾度か接吻して暫時しは離さない。

龍野『なにをするのです、僕の手に接吻をして[illegible]』

美人『なぜと仰しやいますか、あの惡々敷い嘘吐きの口を捻つて下さつた御手ですもの、そして妾の母の讐を採つて下さる御手でせうから、妾は男爵の[illegible]の手ではありません、違ふ～妾を殺した男爵の妻が妾の母なんですよ、妾は怨みます、恐ろしいです、あゝ足音がしますよ』

一瞬間に美人の姿は元來た樣に素速く只の一秒時も經たない内に男爵は手に劍を拔き持ち門番の男を連れて此室に這入つて來た。

男爵は以前より丁寧な言葉で、

『此は私が家來ぢやから此決鬪の差添へに連れて來た譯ぢや、而し此處は餘り取散して狹いから少し濶い室に案内する事にせうがせうだらう其方に來て下さる譯には行くまいかな』

此室の狹いと云ふのは龍野も同感である、大きな卓が眞中に置いてあるから、そこで二人は案内につれて薄暗い廊下に出ると其一方の端に開いた戸があつて光明がさしてゐる。

門番の男は其の入口迄案内して。

『此處が丁度好い場處です』

と云つた、見れば隨分濶い密室で壁の處々に酒樽が幾個も積重ねてある計り、片隅の棚の上にランプが明々と輝いて居る、床は極く平坦くて丈夫であるから劍客として誰も苦情を云ふ可きでない、龍野は劍を拔いて室の中に躍り込んだ、男爵は世良田に會釋して續いて這入れと云ふ樣子を示したから世良田は何氣なく龍野の後に續くと其足が閾を越ゆると思ふと後から厚い扉が鎖されて鍵のきしる音がした、二人は計略に罹つたのである。

二人は驚きの餘り夢かと計り暫時は茫然たるを禁じ得なかつた、斯くの如き卑劣な擧動には今迄曾て出會つた事がないから、而しあんな經歷の男の云ふ事を浮と信用した馬鹿々々しさを思ひ當ると今更ら其奴の惡々しさと自分等の馬鹿々々しさと兩方で以て俄かに腹が立つて腹が立つてやりきれないのであつた。

二人は同處に扉の處に行つて兩手で押す叩く蹴るした、其音は多分城の内の隅々まで聞えたであらう、二人は男爵をあらゆる惡名で以て罵つた、如何に冷酷な奴でも聞て居られない樣な言葉のありたけで以て、而し扉は頑丈に出來てゐる、中古式の城の建て方で扉には鐵鋲が這入つてゐる、からて何程して壞れるものでない、それで二人の罵る聲には誰も答ふるものなく只頭の上の床板に激しい足音が聞ゆるのである、さて到底元の入口から出る[illegible]と諦めて自分達の牢獄になつた室の窓の樣子を調べにかゝつた。

朝鮮日報

韓國雜事

●長谷川軍司令官の告示　長谷川韓國駐箚軍司令官は本月八日付を以て左の告示を發せられたり

第一　軍事の必要により當分の内左の區域内に包含する土地の賣買貸入其他所有權の移動に關する行爲を禁ず
但し元山開港地域外十韓里以内は此限にあらず
一、松津江の河口より永興線以南
二、永興、高原、禍河峯、種木亭、老人峙の線以東
三、老人峙、安邊、鴨龍洞の以北
第二　前項の禁を犯す者は軍律により處分す

●新任清國公使　新任清國公使曾廣銓氏は上海を解し廿五日午後南大門に着する筈にて清國居留民は同國公使を歡迎する筈聞く處によれば同氏は年齢壯に多年英佛に在留し頗る文明の素養ある人材なり向前任公使許台身氏は事務の引継を了へ一週日後出發歸國の途に就くべしと云ふ

●商船會社の航路組織　本年は稀なる寒氣にて本年は稀に結氷を看ずして例年の閉港期を越すも可き見込に就き大坂商船會社にては取敢ず臨時航を鎭南浦迄回航せしむるは前號既記の如くなるが猶該地及安東縣方面への定期航路も出來得る丈け早く開始の筈にて着手し以て一般貨客の便を圖る計畫なりと云ふ

●韓國借款未だし　韓國借款問題は既に決定し目賀田顧問は其用向を帶びて歸鮮するものなりとの說を傳ふるものあるもソハ事實にあらず今日の場合韓國においても必ずしも借款を實行するの不利なるは勿論我政府に於ても亦第三の百三拾萬圓借款事件を再演するあるこ［illegible］韓國の財政整理に關する諸問題は目賀田顧問赴任以來着々其調査を進行せしも其結果從來の貨幣制度を改革せしむるに止め今日のところは借款は双方の利益上之をなさずといへり

●滿韓用機關車製造　京義鐵道及び京釜鐵道の使用する機關車客車數台は目下在滿各地において製作するとに決定し已に其手段中なりといへり

●財政警察の把握　其筋にては斯くて財政警察權は重に本邦當局者の下に完全なる活動をなすべき方針なりと

●義和宮の歸國　米國遊學中の義和宮は近日歸國する筈電報ありたり

●韓國の警察顧問　我政府より目下韓廷に向て交渉中なる拾三名の警察顧問を本邦より派遣する準備を繼行するに至らば右警察顧問は單に警察事務の顧問たるのみに止まらずして專ら韓國内地における秩序なる行政上の弊風を去らんとするにありて其任命の人員も略定り東京各區の警察署長蓮に其任に當るべしと

●日本巡査統率の必要　現今各領事の配下にある日本巡査の數益增加するにより是等の統一を圖る必要あり或は丸山警察顧問をして其統一の任を兼ねしむべき形勢なり

●内部顧問の出發　韓國内部顧問ヂルコイン氏は去廿三日夫人同伴神戶に向ひ出發せり

●軍部及農工部顧問の拜謁　野津顧問は去廿二日午後四時加藤顧問は廿三日午後五時三拾分韓皇陛下に拜謁せり

●沿岸測量　我海軍水路部にては本年四月頃慶尚南北道及江原道沿岸を測量する筈にて上陸立標の場合其地薪水供給に關し同地方官に於て可成便宜を圖るべく去廿三日林公使より外部に宛て要請する處ありたり

●京城と戶口　最近の調査に據れば京城に於ける各國人口は左の如し

國別	戶數	人口
韓國人	四二、三五〇	一九一、七五四
日本人	一、四六二	五、七八五
清國人	二八五	二、六九七
米國人	二四	二九
英國人	八	六
獨逸人	二	二
佛國人	五	六
其他外國人	一、七八六	八、五二五
計	四六、九二二	二〇八、八〇四

東京電報

●西比利亞鐵道の不通　［二十七日午後一時五拾分發　仝　四時拾五分着］
西比利亞鐵道サマラ附近よて積雪の爲め二十一日より不通なり

●莫斯科の鬪爭　［二十七日午後四時五拾五分發　仝　七時七分着］
倫敦發電に曰く哥薩克兵は貳十四日モスコーにて三千の示威運動者に向ひ發砲し多數の負傷者を出せり

●ストライキの地方傳播（仝上）
トレポフ總督は慰諭的宣言を發せるもストライキは地方に傳播しつゝあり

●露國警察の邪推（仝上）
莫西科警吏は此騷亂を日露兩國人の使嗾に出でたりとなせり

●軍需品の掠奪（同上）
軍需品の掠奪は盛んに彼方此方に行はれつゝあり

●南露又亂れんとす（同上）
南露地方にも示威運動計畫中あり

雜報

●露國捕鯨權の全滅　露國某伯爵が鬱山に捕鯨會社を組織し同地を根據として韓海に於ける捕鯨の權を獨擅せんとしつゝありしを以て吾同業者に於ても大に苦慮する所ありしが日露戰爭の結果昨今に至りては全然吾有に歸したりといへり

●漁業權と漁夫移住談（某當局者の談）　漁業經營の實力扶植として最も注意すべきは漁業權が吾日本人に依つて護得されたる事是れ也殖林牧畜等の如き今後外國人も續々入り込みて競爭的手段を執るならんも漁業權に對しては一指染むる能はざる處なり吾水產組合が一面に於て八道の漁權を護得すると共に日本漁夫を移住せしめつゝあるは何人も知る處ならん此の移住たるや又頗る容易の業にして三四年間同業に從事したるもの妻を携へて來るも既に生活すべき家屋も建築あり收穫すべき漁場ある等の故を以て何等の障害に遭遇する事なく自村の沿岸を遊漁するが如く安然たるを得べし若し之れを農業者の移住と比較する時は農業者が地步をつくり資金を投ずる時には漁業者が多少の利得を見るの時なり而して永住的移住は韓國農事をも要せず又其の歸國期間を利用する等其利益頗る多大なり又た移住を爲すべき漁夫なれば一艘の小舟や一個の網位は所持し居れば何等の面倒も無き譯也右の如き次第にて韓國八道の沿岸は近き將來に於て吾日本漁民によりて埋めらるゝの樂天的現象を呈するに至らん云々

●鬱山灣に於ける捕鯨狀況

▲出漁中の船數及び船數

東洋捕鯨株式會社　捕鯨船レックス(砲手メルツン)△レギナ一(オルシエン)　栽解船千代丸△運搬船共同丸△捷鐵和船十隻△外に納屋十三棟△從業者約百人

長崎捕鯨株式會社　捕鯨船オルガ(フレン[illegible])△栽解船太洋丸△貯藏船廣盛丸△運搬船武庫丸△其外運搬用和船數隻

▲捕鯨種類及頭數　昨年十月以降の出漁にして種類は從來長須座頭多かりしも本年は背美の回游以外に鯨く本年捕獲するものは概ね此種に屬す

▲捕獲高　本年は從來稀有の豐漁にして一日三隻にて五頭位づゝ曳き返ることも珍らしからず出發以來本月中旬迄に獲たる數は東洋百二拾余頭(二隻分)長崎百余頭(一隻)なり肉は此勢を以て推すときは本季間に於て現數の倍以上に出づべきは殆んど疑を容れざる狀況なり

▲鯨肉の處理　脂肪は外國向として之れを長崎に送り肉は東洋捕鯨會社の方にては昨冬軍用罐詰用に製造せんとの計畫にて總ての設備を整へ同時多數の職工迄も連れ來りし處本年は本邦に於ける鮮肉價高値なる爲め鮮肉にて販賣する方却つて利益多きを以て目下東方向を轉じ罐詰製造を中止して専ら防鮮肉を日本に送るをなし居れり而して其下關に於ける相場は長須赤肉百斤拾一二圓古鯨同八九圓なり

▲終りに　鬱山灣に於ける捕鯨業は以上の如く近來稀有の好況を呈し居るものなるが東洋捕鯨株式會社方にては此度更に昨春我艦隊の爲めに捕獲せられたる露西亞捕鯨會社用事業船ニコライ、解剖船レシニック、運搬船アレキサンドルの諸船を借受くる事となり過般佐世保に於て艤裝準備を總たる筈なるに付不日來つて其業務を擴張する運びとなり居れりと云ふ

●鰻養殖と鰻の輸出　東海道線舞阪に於ては數年前より一大養殖場を設置し鰻の繁殖を計り東京大坂其他の需用に應じつゝあるが當韓國一般は頗る鰻に富み居るを以て同場よりの依頼に應じ該品の輸出漸く多くなれりといふ

釜山雜事

◎第一銀行の業務大擴張　第一銀行に於ては韓國經營に伴ふ發展の爲め業務に大擴張を行ふ由にて既に決れし計畫中なるが今其聞得たる重なる條項を擧ぐれば實に左の如くなりといふ

一現在の資本金五百萬圓に五百萬圓を增加し總資本金を金一千萬圓にす

一韓國に於ける出張所を增加して左の三ケ處に設置する事

一出張所　元山

一出張所　平壤

一出張所　大邱

附記　山平讓太郎は從來出張所を設置しある元右は同銀行一時の便宜上にして未だ承諾を經由せざる者に付今回定數を改正する由猶大邱は釜山支店の監督に置き平壤は京城の監督の下に置き元山は獨立せしむべしといふ

●第一銀行の定時總會及臨時會　同銀行にては第十七期半季決算承認及利益分配資本金增加定款改正の件等にて本日東京市日本橋區坂本町銀行集會所に於て定期總會及臨時總會を開會の由也

●倉庫會社の現在　昨廿七日の倉庫會社の現在預け品重なる者の數は左の如し

米壹萬〇八百廿六叺　小麥四千壹百四拾叺
大豆壹千五百參拾叺　木炭四千壹百拾五俵

●昨日の居留民會　夜來の風雨昨猶止まず終日蕭々の間釜山居留民會は召集せられたり午後三時開會議員着席島田議長開會の旨を報じて第一號議案より議事に附せり議案はすべて一瀉千里の勢を以て議了されしが其中多少注意を惹きし事項を報せん

第三號議案小學校使用料議定の件にて二番木本氏が尚未會議所の使用料の弘道館使用料に對し不均衡なるを主張して減額說を提出せしも之に對する拾五番石田氏の原案贊成說等議論に稍花を咲かせしも結局木本氏の說少數にて原案通過せり夫れより國井前校長の勤勞金問題に入り三番木本氏は國井氏に對しては氣の毒ながら本案は議長に於て撤回を望むと發議し其理由ふ就ては多々あるも今之を言ふは忍びざる處ありと潮せるは時に取つて如才なかりき拾番議員は本案は個人の一身上に關するを以て秘密會にしたしと發議し拾九番議員は休憩說を提出し議は數說に分れたり拾五番議員は廢案の可否を無記名投票にしたしと述べ多數贊成者ありて之に決し投票の結果は廢案を可とする者六名議事に附せんとする者三名にて慰勞金の件は廢案に決せり（未完）

●大阪商船當港出入荷客統計　最近四年に亘る大阪商船會社當港支店に於て取扱ひたる輸出入貨物船客及び運賃表の統計左の如し

船客之部

▲日本行

年度	客數	運賃
三四	二、〇七七	九、三二一、八六
三五	四、〇〇七	一六、八五〇、一七
三六	六、三一五半	二六、二八四、七四
三七	七、九九八	五九、七七三、三五

沿岸行

年度	客數	運賃
三四	三、三八三半	一九、四九六、一八
三五	三、五三二	二〇、一五四、九〇
三六	四、二九七	二四、七〇五、〇一
三七	三、七一三半	一六、三三三、六七

以上合計

年度	客數	運賃
三四	五、四六〇	二八、八一一、〇四
三五	七、五三九半	三七、〇〇五、〇七
三六	一〇、六一二半	五〇、九八九、七五
三七	一一、七一二半	六六、一〇七、〇二

上陸者

年度	日本ち	沿岸ち	合計
三四	三、三五三	三、〇七五	五、四一〇
三五	二、五九八	七、二九二	九、八九〇
三六	三、二〇七半	九、九八二	三、一九五半
三七	三、〇八八半	二、八二六半	四、七一四半

貨物の部

輸出

▲日本行

年度	個數	運賃
三四	[illegible]	[illegible]
三五	[illegible]	[illegible]
三六	[illegible]	[illegible]
三七	[illegible]	[illegible]

沿岸行

年度	個數	運賃
三四	一六、〇三八	二二、〇四八、八四
三五	二三、九〇二	二三、四六七、〇六
三六	一五、〇五八	一五、三六〇、四〇
三七	一二、一〇六	一八、三七六、〇九

合計

年度	個數	運賃
三四	四六、八一〇	二六、三三〇、八一
三五	六三、〇三九	一四、七四九、八五
三六	八三、〇九三	一五、〇一五、〇三
三七	八五、三九六	二〇、九〇八、八三

輸入

日本ち

年度	個數	運賃
三四	二〇、七一三八	三四六、八〇九
三五	九〇、〇四一二四	三八、〇一六八六
三六	二三、四六一二五	三〇、八四八四五
三七	二〇、六四〇二	二九、二八四九七

沿岸ち

年度	個數	運賃
三四	八五、〇二一	二一、〇三二七
三五	一〇、七八四	二五、六四九
三六	五二、五一五	七九、〇四七
三七	二二、九七八三	五七、六六〇

年度	個數	運賃
三拾四年度		一〇、六五三八
三拾五年度		一三、三三〇四三三
三拾六年度		二三、一五六二
三拾七年度		二八、七四四三

●初入港船二艘　昨日初めて當港に入りし船二艘あり取扱ひたる知多丸は愛知縣愛知郡工業會社の所屬船にして京釜鐵道會社用の石炭六百五噸を乘せて入港せしものにして噸數四百九拾三噸、赤穗生丸は大阪市北堀江通四丁目九番地萬生嘉平氏の所有汽船にして今回同地尼ケ崎汽船會社雇船にして初入航せしもの噸數二百拾一噸積荷は雜貨七拾個を乘せ來れるが以後大阪當港を往復渡航する筈にて當港に於ける同船荷客取扱店は三木回漕店なる由

●昨日の入港船　仙頭丸は午前七時三拾分仁川より第三琴平丸は午前七時大阪より顯益丸は仝八時三拾分大阪より第二琴平丸は仁川より松前丸は仝八時二拾分仝上全勝丸は仝十時長崎より知多丸は十時卅分門司より福生丸は仝十一時長崎よりにして都合八艘なりし

●昨日の上陸者　仙頭丸にて一名大顯益丸にて廿六名第三琴平丸にて卅名松前丸にて三拾名第三琴平丸にて一名全勝丸よて一名合計八拾六名にして中京地行一名釜山行一名大邱行貳名なり

●野尻視學官の參觀　文部視學官野尻精一氏は昨日當地小學校假教場を巡視し教育上の模樣を視察せり

●望月代議士の歸國　韓國視察を終へ歸國の途寄港せられたる望月代議士は大池旅館に投宿中なりしが昨日歸國せられたり

慶尚道事情に關する釜山領事館の調査（つゞき）

一丹城　戶數二千九百二十五戶、人口一万三千二百二十五人、田國二千五百三十二結八十八負七束
一軍威　戶數三千七百三十八戶、人口一万四千百九十六人、田國二千七百四十四結三十七負七束
一比安　戶數三千八百〇八戶、人口一万三千八百十一人、田國一万一千三百四十四結九十二負六束
一義興　戶數三千五百九十七戶、人口一万三千八百十一人、田國二千七百三十七結九十四一束
一新寧　戶數四千四百〇二戶、人口二万〇八百〇九人、田國二千三百廿六結八十三負二束
一禮安　戶數三千〇〇二戶、人口一万一千一百六十七人、田國一千三百九十六結八十二負四束
一迎日　戶數三千七百三十三戶、人口一万六千百四十五人、田國三千百結二十七負八束
一長鬐　戶數二千百九十九戶、人口八千三百十一人、田國千四百九十五結八束
一靈山　戶數五千百〇九戶、人口二万二千九百二十四人、田國四千二百四十一結八十三負四束
一昌寧　戶數九千五百五十九戶、人口二万八千〇七十三人、田國六千四百結五十一負二束
一泗川　戶數四千百二十六戶、人口一万七千三百十三人、田國三千二百〇一結七十八負八束
一漆谷　戶數三千二百二十四戶、人口一万二千四百〇八人、田國千六百〇貳結貳負七束
一熊川　戶數四千三百三十三戶、人口一万九千三百四十六人、田國千七百九十二結二十八負五束
一玄風　戶數五千七百〇四戶、人口一万六千二百八十四人、田國四千三百二十九結七十二負七束
一山淸　戶數五百二十戶(不詳)人口一万〇貳百四十六人、田國二千二百四十九結二十一負六束

入社の辭　孤岳生

余は友萬生詞兄の招きにより本日より入社し讀者諸君に見ゆる事となれり余が遲鈍の筆は諸君をして滿足せしむる能はずと雖も幸に眷顧の榮を賜はらん事を切望々々

雲影過雁

▲サヴア河祭禮の實弱は露國革命の導火線白浪餓鬼の一下也露帝幸に無事なりと雖ザアの社は風前明滅の孤燈より危し

▲革命の勢は燎原の火の如し南露亦亂れて四方に軍需品掠奪行はる騎兵三千示威者に發砲死傷無數の慘事とは驚魂辟なし

▲騷亂の動機は專政暴斷の大反撥のみ日英兩國の使嗾と邪推せる露國警吏は上氣して精神に異狀あり噴飯を過て轉た慨然

▲國内人を空うして狂呼亂奔勞者其職に當らず滿州曠野の軍器軍糧滿んとして今亦た積雪のため西鐵道不通天人共に露を弔す

▲然者之を計る如何迷に和を我に講ずるにあり而して民心を容れ更始一新の實を擧こば或は悟らくばザアの朝廷其人なし

[illegible]

●韓錢相場［十一月廿七日］
現錢　十七割三分

朝鮮日報

特別廣告

義勇艦隊建設寄附金募集廣告

我帝國海事協會ニ於テ計畫セル義勇艦隊ノ創設カ帝國現下ノ狀態並ニ將來ニ對シテ尤モ重要ニシテ又尤モ子孫ノ爲ノ壯擧ナル事ハ世人ノ共ニ異論ナキ所ニシテ此可有之就テハ我港ニ於テモ此ノ際應分ノ寄金ヲ致シテ該計畫ヲ補助仕度幸ニ此目的御贊同ノ諸君ハ速ニ奮テ續々寄金ノ申出アラン事ヲ請フ

明治三十八年一月廿五日

委員 有吉明

内規
一、寄附金ハ一口一圓五十錢以上トス
一、寄附金ハ釜山居留地役所ニ於テ取扱フ
一、寄附金ハ別ニ領收書ヲ出サス朝鮮時報朝鮮日報朝鮮毎日新聞ノ廣告ヲ以テ之レニ代フ

社告

本紙發刊日尚淺く配達方不慣にて種々不都合の廉も可有之候間若し配達漏れの向も有之候はゞ御序の節御一報被下度候右御願申上候左すれば特に別配達を以て御送附可致候也

本紙定價の儀は一ケ月金參拾錢
に有之遠隔の地へは別に郵稅金十二錢を頂戴可仕候

明治卅七年一月廿八日
朝鮮日報社

小說

露探狩り　黑潮

（五）　（土藏の中）つゞき

手島が縛せられたる右手を筆談の爲に稍弛められたる爲め帶に卷きたる時計の鎖を弄ると見しは兼て用意の極々精巧なるナイフの長さ一インチ計りなるを付け居たるためそを取りはづして微かに之を膝の下に隱し知らぬ顏に喉元を擦で抔しつゝ、彼等が爲ん樣を見てゐれば、瘦ぎすの紳士は壯士に向ひ。

『どうせ駄目だらうと思つたから、藤見君に道具を採りにやつたが、どうしてるだらう、もう來る筈だが、あんなに解る樣に云つたんだけれど』

壯士『なあに先生の道具など入るものですか、頸に繩を付けて絞たら澤山です、こんな奴は』

『さうは行かない、死刑にも近來電氣を用ゆることが流行して外國では使用してるさうだが僕はまだ實驗した事がないから一つやつて見やうと思ふんだ』

壯士『うむちや先生自分に行つて持つておいでなさい』

『さうしやうかな』

瘦ぎすの紳士は外の方を眺めたり。

『月はある筈だが家の傍で無闇だな、君此燈火を借るよ』

壯士『早く持て來て下さい、早く片付けるが好いです』

瘦ぎすの紳士は、手島の縛られたるまゝ、壯士は例の樹造りの簡なる雜具の上に顚打ちかけたるまゝ闇黑の内に殘して母家の方に出で行けり。

壯士『醫者あんちうものは面倒なと計り云つていかん直に達付けて了へば好いに、何だ電氣機械の試驗をする、人を馬鹿にして居やがる、………オツト用心に如くなしだ來るまで扉を閉めて置かう』

壯士の北井は探りながら、土藏の戸を内より閉めんと立ち上りたるが此時後ろに物の動く氣配すると直樣歸に小けたる右手にひやりと當るものありて戸と柱との間より今や外に馳け出さんとする者あり。

『うぬ、切つたな』と叫びながら今右手を深く切り刳かれしかど怯ひるまず逃げんとする手島にむづと組付きて捻ぢ倒さんとするとき、思ひもかけずマツチの光り、やあ手島君だ、と云ひつゝマツチを投げ捨て、組合つたる二人を土藏の外に引ずり出し北井の襟を後方より締め付けその手島を離したるを見て。

『手島君、逃げ玉へ、僕は此奴共の始末をして來るから』

手島は答へんとするも聲出でず其處にて誰なるかを知りたる親友の肩に手をかけて早く共に逃げされば我不覺を探りたる如く電氣にかけられて身體の自由を失ふ計りか、遂には生命迄も失ふに至るべしとの意を通ぜんとすれど彼は其意味を覺る可くもあらず。

『さあ、此奴は締めたから、斯うして置いて古海君を探さなくちやならない』

手島は初めて古海なる他の友人も此處に在るを知りたるものからさて何とかして露探等の奸策を敎へてやらんと思へど只喘ぎ鳴らして苦しげに息つくのみ、江上は初めて手島が聲の出でざるに氣つき。

『君どうしたか聲が出ないか』と云ふ時[illegible]の聲一發、二發、續いて此方をかけ來る二三人の足音、其内の鼻先きらしきが。

『江上君、手島君は土藏の中だ、逃れて逃げ玉へ』

と叫び來る。

『手島君は此處に居る、さあ退却だ、君も來い』

又もやピストル聲、玉は土藏の壁に當りたるらしかりき。

『やあ、彼奴ぞうして綱を切つたらう』

『兎も角大變だ、逃しては』

『北井に活を入れて、早く二人で追かけて』

『彼の手島と云ふ奴を生捕らなくちや、彼奴口が利かないからまだ大事の秘密を傳へては居ないさ、彼奴が筆談をして仲間のものに彼を知らせると大變だから』

藤見は活を入れて北井を蘇生せしめたり。

北井『皆な逃げたか、あゝ了つた、先生が僕の言を用ゐないから』

『そりや仕方は無い、兎も角追かけて捕まへなけりや、二人共拐杖を持つて行き玉へ』

雜報

●退韓者　左の四名は安寧秩序を妨害したるものとして自今滿二ケ年間の退韓を命ぜられたり

愛知縣溫泉郡三津濱町字桂町九拾一番地平民無職　白石役五郎（明治元年生）
仝縣仝郡朝美村大字味酒八拾番地平民　越智美之吉（文久三年生）
仝縣越智郡今次町字中濱町番地不詳　久保田壽兵二（明治五年生）
大阪市西區河津座上通一丁目百一番地　森　鶴之助（明治六年生）

●精米の前途（糠操米と其の需用）　定蹈

米が石灰を混ずる等の事より一般の氣受を損じつゝあるより引換へ朝鮮人の食金も割合に高價なる等の事より糠操米の前途頗る好望なるものあり殊に昨今韓人より直接に玄米を買ひ入れ精米所に依賴して白米とする者多き由なるが右は却つて白米としたるものを買ひ入るよりは遙かに利益ありといふ

●藤醫士の韓人疾病談

◎韓人の疾病かね、彼等の疾病を一言に評するならず等病と言ひ度い、複雜なる上等病といふのは文明國民になる丈多のである、此即ち頭腦を要する國民程其國は文明である、神經系統の疾病や、腦病の如きは文明國民の專有物といふても差支ないのである

◎朝鮮人は頭腦を要せざる國民である、だから是等の疾病は頗る稀れである

◎彼等の疾病は曰く梅毒、曰く負傷、詰りそんな譯である

◎而して腸胃病の如きは韓人の凡てを通じてそうである、韓人は生るゝと直ぐ腸胃病者てそうして慢性の該病者なのである、何故といふに呱々の聲を揚げると直ぐ唐辛や南蠻の如きからいものを喰ふ習慣は斯かる疾患を離すのである

◎一體疾病といふものは自然的全治するものになつて居るものであるから搆はず放て置けばよいのにナマナか傷口抔にいろ〳〵な有害の藥（くすりでもない）を張つて傷を腐敗させて余病を發するが如き事になる

◎而かし韓人一般は宜く利く

◎夫れから釜山港民には腸胃病者が多いと聞くのかね然らみんな人は精神的快樂を得るやうといふ人は頗る稀で人を招待した時は必ず何かを喰はせる客其人も何か喰はすには遲らぬので自然胃を害し腦を損して居る

◎而して亦澤山喰はしても夫れ丈運動さへすれば腸胃はよく消化するのであるが釜山は御承知の如く甚狹隘であるのだから運動の仕樣もない又アー腹が苦しいといふて外出する而して歸途には又料理屋に這入るといふ先生方が澤山居る

女醫淺海琴子を訪ふ

◎韓人に施療するのが目的でございますから追々出張所を草梁なり釜山鎭なりに開設する積りで居ります、東京から最う一人渡韓する筈になつて居りますから參つたなら直ぐ實驗が出來るかと想ひます。

◎醫の如きは尤も婦人が適當して居る仕事でございます、殊に婦人の患者に接するには女醫がよいのでございます、何故といふに一體婦人といふものは遠慮勝のものでございますから男子の方に診察をして頂く事になると何分其の病源、傷狀等に於ても話さぬ事があります、其の病源やら傷狀が明白しないものを全治せしむる事が難いのは當然でございます、また其の原因や疾病の模樣を秘されて居るのに違つた藥を與へるとなると病勢を重くする丈で全治せしむることが難いのは是れ又た當然でございます

◎女同士なれば大抵の秘密も打明けますし又患者も打解けて話しますから至極療治が易い事になるのでございます、韓國の婦人の醫者などには尤も適當でせう、殊に韓人は比較的男子に接せざる習慣でございますから妾適の天職として彼等に當る必要がございます。

◎自分等の手前味噌許り並べる樣ですが藥局生などは至極婦人に適した職務と思はれます、何故といふに女は正直で大膽でございませんから藥を盛るのにも緻密で唯分量をあやまらざらんことに勉めて居りますが男子のお方になると至極敏速にやられまするかはり分量等に注意せざるといふ事にあるのです。

◎是より談は女史の苦學談、婦人と社會等の問題に移りしも略す、院を辭して巷に出づれば細雨やみ日は暮れて松の梢末を流るゝ笙のいと冷かなり。

●少女を犬に喰ひ殺さる（露西亞人の樹風は想像の外にあり）

露國には今尚人身賣買の樹風盛にて處々に女子賣買周旋所ありて十五六歲位の少女が是等の樹風に誘惑され一生を浮む瀨なき境遇に陷れらるゝは少からず此種の事なりシウヤ、スピルワクと云ふ一少女某處の周旋所よりコンスタンチノープルに娼妓として賣らるゝ事となり悲さに堪ず逃げ出せしも忽ち捕へられ同人の知らぬ七重八重に總を懸けられては連れ戻されし同旋所の主人たるアプラモウスキーは無慘にも裸體とし手足を縛して身動ならぬ樣になし猛犬數頭の中に横へ犬を嗾しかけ其肉を喰はしめしかば少女は悲鳴を揚ぐる少時其肉乃白きか忽ち紅の血汐に塗ると共に絕命したり此事世間に喧しく傳へられ官吏の耳に入りしかば直ちに主犯アブラモウスキーは捕縛され嚴重に取調を受けしに同人の手のみにて昨年中土耳其印度東洋各港へ輸出されし不幸なる少女の數實に三百數十人の多きに達せし外オデツサには娼妓仲買人として此營行を業とするもの十四五町もありと聞き流石の露國官吏も擾々驚きし氣味にて頻りに取締の法を講じ居ると云ふ

●遺失品　濟内大廳町福田增兵衛氏は去る廿五日午后一時頃草梁監理所より當港北濱に至る間に於て色澳茶の首卷一本を遺失し其筋へ屆け出でたり

投書函

注意 ◎人身攻擊に涉る勿れ ◎廣告吹聽的にする勿れ ◎百字以上を用ふる勿れ

釜山でもこんなに雨風の日があるんだもの、妾やつはり日本の方が好いわ（小式部）▲さの玉ふな天氣の好い日が九分ですよ（保り）▲西浦屋町邊には一夜一圓の處があるよ其女の名前は（承知生）▲何處かの會計樣は一淵樣の一子さんもお樂しみだけな、ハ、、、（幽界坊）▲藥紫二郎とは政男命までも預けた戀男ですよ、是は事實ですから出しても關いませんよ（△△△）▲北濱の團野と云ふ酒屋の小僧はなか〳〵勉强する感心だよ（一花客）▲辨天通りの文具を賣る店の主人はなか〳〵叮寧だ（買物生）▲僕は大廳町の附近で雨降にすべり倒んだが韓人の老婆が見て居て笑つて行つた（ヘイカミ）

列車發車時刻表
北ノ風雨後晴レ
手形　十七割